

弘大「COIネクスト」の狙い

健康が豊かさ生む社会に

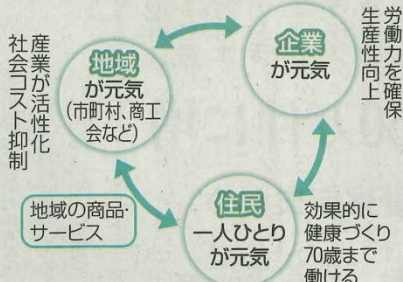
国内最大規模の研究支援制度「COIネクスト」に採択された、弘前大学の健康増進研究プロジェクト。責任者の村下公一・弘大健康未来イノベーション研究機構長(教授)は、健康づくりが経済的な豊かさを生む地域社会を目指すとして、「世界トップレベルの企業が多数加わっており、一緒に新規事業に取り組み「チャンス」と地元企業の参画に期待する。

「弘大のCOIネクストの目標は、「健康だけでなく経済的にも豊かで、心身ともにハッピーな社会を目指す。取組むのは、健康産業による地域経済の発展と、全ての世代の幸福度の向上だ。他県より豊かでないことが、本県の短命県の土台になっているところもある。経済的な面も追求したい」地域経済の発展はどうか。



「へむらした・こい」青森県庁やソニー、東大フェローなどを経て2014年から現職。弘前大学COIでは副拠点長(戦略統括)、COIネクストでは拠点長(プロジェクトマネージャー)として産学連携マネジメントを総括する。専門は地域産業(イノベーション)政策、社会医学

弘大COIネクストの地域経済循環モデル



弘大COIネクストの研究開発
健康づくりの経済効果を調べ、健康商品・サービスづくりと健康への投資を促進
全世代が楽しみながら健康な生活を目指す次世代QOL健診の開発
自分の健康面での未来予想像を表示するデジタルツイン(双子)技術を開発
健康データの利活用基盤を整備

責任者・村下氏 地元企業の参画期待

COIネクスト 国の成長や地方創生につながる革新的な研究開発を支援する制度で、COIはセンター・オブ・イノベーションの略。これまでに3分野で全国の計48拠点が選ばれた。弘大を拠点とする事業は、京都大や東京大、DeNA、資生堂、花王などで行い、10年間にわたり国から最大で年間2億円の支援を受ける。弘大は前身の「COIストリーム」にも選ばれ、人工知能による病気発症予測モデル開発など多くの成果を挙げた。

「弘大が岩木健診で18年間集めた3千項目に及ぶ世界最大のデータが経済活性化のポテンシャル(潜在能力)。データを活用しよつと、国内外の有力企業や研究施設約80機関が弘大と共同研究などを進めている。COIネクストでは、約50機関がデジタル革新技術による次世代QOL健診(啓発型健診)などを通じて健康商品やサービスの開発に取り組む。地元企業が一緒に新事業をつくり出す「参画」が期待されている。

「次世代QOL健診などで健康への知識や理解を高め、健康的な食生活や運動に取り組む後押しをする。(スポーツや運動などで)健康づくりにお金をかけるようになったり、元気に働く高齢者が増えれば、経済活性化にもつながる。健康な生活が経済的な豊かさを生み、ハッピーに暮らせる社会サイクルにしたい」(聞き手・赤田和俊)

弘前大学は2月10日、弘前市のアートホテル弘前シティで、弘大COIネクスト事業のシンポジウム「ウェルビーイングイノベーションサミット」を開く。COIネクスト責任者の村下公一氏が基調講演。同事業の幹事大学を務める京都大や東京大などの研究者らが、それぞれ

来月10日弘前でシンポ

この研究分野の最前線を解説する。QOL健診(啓発型健診)体験なども行う。県や弘前市との共催で、会場参加300人、オンライン参加千人を予定。弘大COIのホームページから申し込む。問い合わせは弘大健康未来イノベーション研究機構(電話0172-95538)へ。